

あきの素直な心

夕方ルを賈つた

あけの葉のあざらしさ 才と心に待たず

しんくさる 平内巻の妙だ

こんちろふんで 手をふくむんて ちろふい

あくと 深衣局の

染巻の段折がすうんじ 着るもりあまうた

せいのもあうて いろん原色にそそく

人の思いも その人のカラーが影柳あう

最近 っつくとしに 裏紙をどころか

服全体 起毛さしに ちまうて争い入れた

あふると 実にお互にかい

こんちろふたにかいものがあふんて

あふたにかい く 夜ねと 晴 かや布目の上

からかやに じりつと あふたにかい

三時頃ぐうい だろうか

それ巨 何おのうにんちろふ

そのあふたにかい けやになうた

何おのうて あふちあふて さっぱりしん

何おのうて あふちあふて

このフワクにはあきが来る

あはたかさの中には フグケうねるものと

あきと来るもの水あき

あはたのうねり

毛の年あはたかすは フグケうねるほしい あはたか

うねり 合戦せいせいあはたかうねる

あきが来る

あきのあきも同じエトがうねる

あきし さあきも うねりあきると あきが

来る

あきのあき さあきも うねりあきると

2021  
11/26